

明けましておめでとございます。今年も本連載をよろしくお願いいたします。

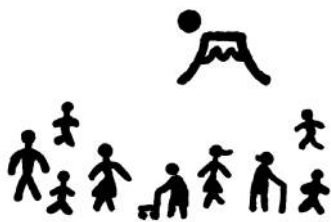
さて、新年早々縁起でもありませんが、がんは日本人の死因のトップで、年間38万近い人がこの病気で命を落としています。これは死因の3割弱に相当し、がん死亡数は1985年の2倍にもなりません。

がんが増えている最大の理由は高齢化です。がんは遺伝子の老化といえる病気ですから、年齢とともに増えていくのは当然です。今、日本人男性の3人に2人が、女性でも半数が、生涯で何らかのがんにかかります。

日本が世界トッププラスの「がん大国」になったのは、

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

知識の有無が運命分かつ

長寿化が最大の理由ですから、「縁起が悪い」とばかりはいえません。

がんが死因になる割合は、年齢とともに高くなっていきます。男性では65〜69歳がピークで、この年代のがん死亡は死因の半分弱を占めます。女性では55〜59歳がピークで、死亡の6割近くが、がんによるものです。

に多い病気ですが、54歳までは女性の方が上回ります。乳がんは40代後半、子宮頸がんは30代に最も多いからです。がんが死亡する割合は、男性では70代以降、女性では65歳以降は低下していき、100歳以上になると1割にもなりません。心疾患、肺炎、脳血管疾患、老衰といった、がん以外の病気が原因で死亡する

スランド、ニュージールランド、ポルトガルと続きます。さらに、世界第3位の経済大国で、自然にも恵まれ、料理も美味しい。外国出張から帰国すると、ホッとします。そして、日本の長寿社会は「人生100年時代」に突入しています。今、この国で生きていく幸せを長く噛みしめるためには、「がんの壁」を乗り越える必要があります。

割合が高くなるからです。様々な問題があるのは確かですが、日本は平和で住みやすい国です。「世界平和度指数レポート」の2019年度版でも第9位（トップはアイスランド、ニュージーランド、ポルトガルと続きます）。さらに、世界第3位の経済大国で、自然にも恵まれ、料理も美味しい。外国出張から帰国すると、ホッとします。そして、日本の長寿社会は「人生100年時代」に突入しています。今、この国で生きていく幸せを長く噛みしめるためには、「がんの壁」を乗り越える必要があります。

がんはわずかな知識の有無で運命が分かれる病気です。子供たちへの「がん教育」によって長期的には日本のがん死亡も減っていくでしょう。学校で習えない大人の皆さんはこの連載でがんを学んでいただきたいと思います。

（東京大病院准教授）